

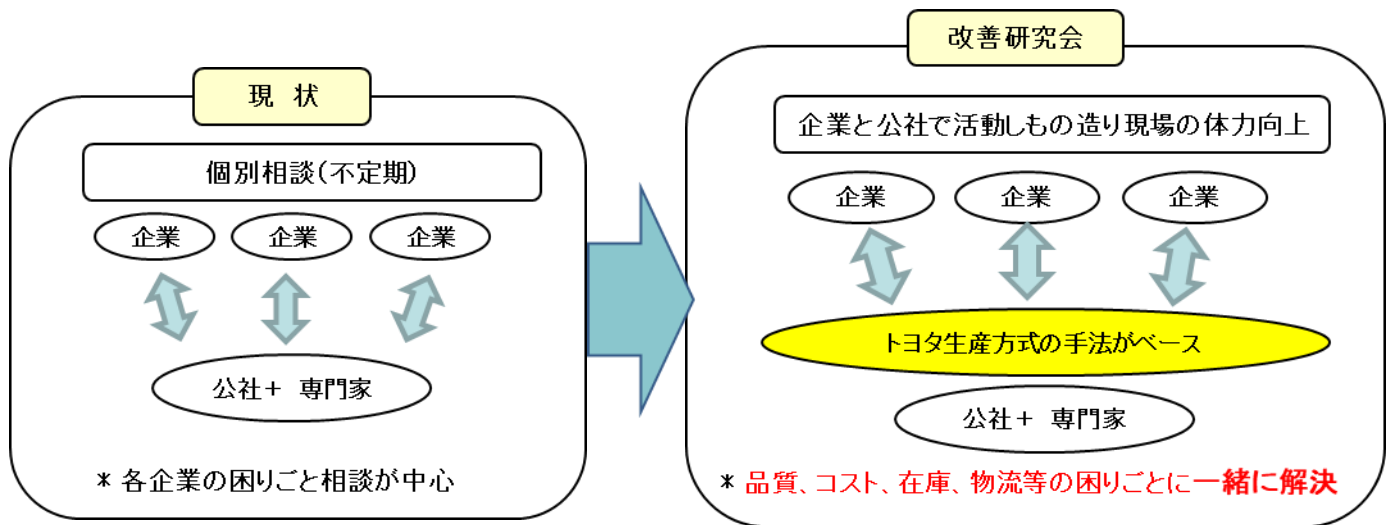
トヨタ生産方式を用いた改善研究会 募集案内

I、活動の背景・趣旨

自動車業界が大きく変革している中で、厳しい競争を勝ち抜くためには、付加価値を高め、より効率的な生産活動に取り組まなければならない。さらに企業が利益を上げて存続し続けるためには、もの造り現場の体力向上を図る必要がある。

そこで、中小企業の継続的改善や利益向上、もの造り現場の体力向上を図るために、トヨタ生産方式のジャストインタイムと自動化を長年実践してきた専門家から、改善手法を初歩から学ぶトヨタ生産方式を用いた改善研究会を立ち上げる。

II、トヨタ生産方式を用いた改善研究会のスキーム



令和5年度の活動内容と参加企業の成果

企業名	活動テーマ	目標	結果	主なねらい	活動期間
A社	生産性向上	・ 残業削減 4.2→2.1H/日 ▲50%	2.1H/日 ▲50%	①マシンタイム短縮 (マシンネック解消) ②人の動作改善 (標準作業の作成)	23年9月25日～ 24年2月21日 延べ11日
B社	在庫低減と 1人工の追求	・ 在庫低減 8.2→4.1日 ▲50% ・ 生産時間▲25%	1.0日 ▲81% ▲35%	①生産指示の平準化 のしくみづくり ②標準作業の理解と 必要人工で適正配置	23年9月29日～ 24年2月27日 延べ10日
C社	仕掛在庫の 低減	・ 在庫低減 8→1日 ▲88%	1日 ▲88%	①生産指示と進捗管理 のしくみづくりに より造り過ぎの防止	23年9月26日～ 24年2月26日 延べ10日
D社	在庫低減	・ 在庫低減 15.2→8.0日 ▲47%	8.0日 ▲47%	①各工程別の在庫日数 の把握としくみづくり	23年10月26日～ 24年2月29日 延べ10日

Ⅲ、トヨタ生産方式を用いた改善研究会の概要

1) 目的 企業が利益を上げて存続し続けられる原価低減活動で企業の体質強化を図る

- ①トヨタ生産方式の考え方、ものの見方を理解し、ムリ・ムダ・ムラを省き、良いものだけを、安く、タイミングよく造り・運ぶことで生産性を高め、原価低減につなげる
- ②あらゆるムダを理解し、現場で見つけ対策できる人材の育成を図る
- ③自社技術を売り込む提案とプレゼンテーションの力を身につける

2) 活動概要 (スケジュール)

期間 5か月 前期(5月～9月) 3社、後期(10月～2月) 3社

- ①事前確認 担当コーディネーターが伺い、参加企業の現状を確認
- ②キックオフ
 - ・TPS教育・・・「トヨタ生産方式の基本」
 - ・現場点検・・・「7つのムダ」を中心に現場の問題点を出す
- ③改善活動 基本2回/月、半日～1日
 - ・TPS教育・・・TPS用語を中心に講義(毎回1時間程度)
 - ・改善活動・・・改善メンバー+担当コーディネーター
- ④中間フォロー(前期は7月、後期は12月)
 - ・活動状況中間報告回
- ⑤成果発表会(前期は9月下旬、後期は2月下旬)
 - ・活動成果発表

Ⅳ、トヨタ生産方式を用いた改善研究会 募集企業

6社(前期3社、後期3社)

Ⅴ、費用

無料

Ⅵ、申込方法

埼玉県産業振興公社 HPから申し込み

<https://forms.gle/ej7fDBaDSiSNH98w6>

Ⅶ、問い合わせ先

事務局

公益財団法人埼玉県産業振興公社

新産業振興部技術開発支援G 吉野・平岩

TEL 048-711-6870